

# 主体的に社会の形成に参画する力を育てる社会科学習

歴史的分野専門委員長 各務原市立中央中学校 本間 祐一

## 1 はじめに

昨年度の歴史的分野では、事実に関する認識を獲得する授業と価値に関する認識を形成する授業の方向を見出す上で非常に価値のある提案があった。事実の定まっている歴史的分野の授業においても、これから未知の状況に対応して社会を構想していく力を身に付けさせることを頭に置き、実践を重ねた。昨年度の実践を次のように確認する。

### 事実に関する認識を獲得する授業

→ 歴史的事実についての知識や概念を獲得する授業。★いわゆる「いつもの授業」。

### 価値に関する認識を形成する授業(個人の価値形成)

→ 知識や概念をもとに、時代相(どんな特色なのか、何が大切にされた時代なのか)をつかむ授業。  
→ その上で、時代の転換点はどこかを把握し、「よりよい日本(他国・地域)にするにはどうすべきだったのか」を選択・判断する授業。

★いわゆる「単元の中核」や「単元終末の授業」

## 2 昨年度の実践を受けた今年度の方向

- 「事実に関する認識を獲得する授業」をこれまで同様、大切に積み上げる。その学び方を身に付けさせる。
- 時代相(概念的知識)をつかむことを通して事象の是非を判断する場合は、価値に関する認識を形成する場と捉える。そのような判断を問う場を意図的に単元に位置付け、経験させていく。
- 時代の転換点でどうすべきだったかを判断する授業(主に単元終末)はこれまで通り、可能な単元に位置付ける。

## 3 研究内容

### (1) 全体論参照

### (2) 社会の形成に参画する力を育てるための指導方法の明確化

- ① 事実に関する認識を獲得する授業のモデルの定着・発展
- ② 価値に関する認識を形成する授業のモデルの構想・提案  
→ 授業後半における、価値に関する認識を表出させる教師の発問の在り方

## 4 研究の方途

### (1) 単元の構想

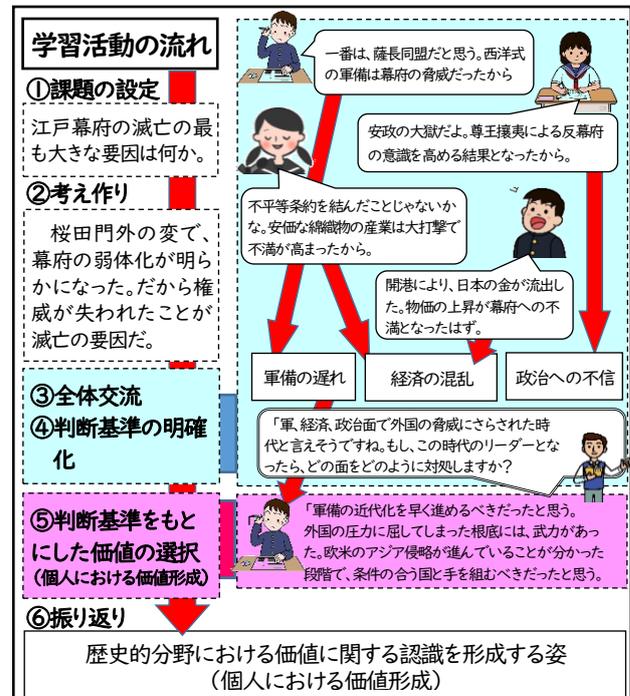
全体論にあるように、価値に関する認識を形成する授業は、「結論が定まっていない事象」と捉える。歴史的分野においては、その内容のほとんどが過去の事象であるが、それらをどのように考えるのかを生徒たち

に問うことで、「価値に関する認識が表出される」と考える。そこで、以下のように単元の中に各授業を位置付ける。

	授業の種類	位置
事実に関する認識を獲得する授業	<b>STEP1</b> ○ 学習する時代の国作りの課題や社会の変化から単元の課題を作る授業 ○ 時代の出来事や社会の仕組みについての知識を獲得する授業	単元導入～中盤
	<b>STEP2</b> ○ 人物の国作り等に対する営みの是非について判断する授業 ○ 時代相をつかみ、時代を象徴する事象の是非について判断する授業	単元中盤
	<b>STEP3</b> ○ 時代の転換点はどこかを考え、「よりよい国にするために何が最も大切だったか(事象の優先順位や序列)」を判断する授業	単元中盤～単元終末

### (2) 1 単位時間の在り方(単元終末の授業を中心に)

STEP3 の授業においては、次のような授業展開を考えている。



今年度は、STEP3 の授業はもちろん、STEP2 の授業も充実させ、価値に関する認識を表出させる授業の在り方を考えていきたい。